

史上最悪の介護保険改正 第3回

4：1配置で施設のケアが 監視と管理に変わる！

2022年11月3日

特別養護老人ホーム 駒場苑
施設長 坂野悠己

特別養護老人ホーム 駒場苑 定員55名

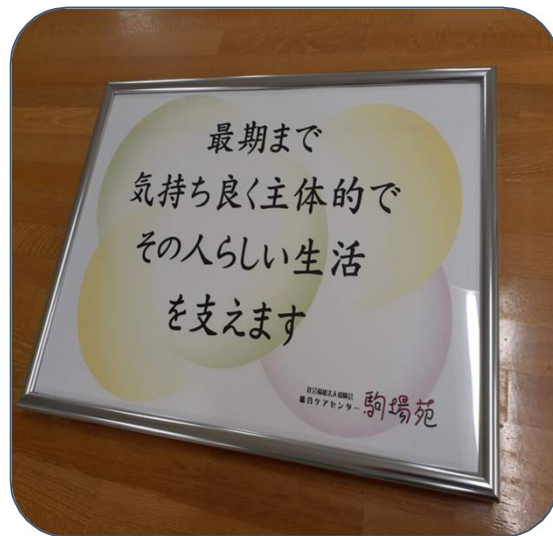


東京都目黒区

駒場東大前駅（徒歩6分）

池尻大橋駅（徒歩10分）

駒場苑の理念とそれを特養で実践するための 最低限のケアの保障としての7つのゼロ



理念に逆行すればするほど
この7項目は安易に使われ
特養で激増します

駒場苑の7つのゼロ

- 1 寝かせきり **ゼロ**
- 2 おむつ **ゼロ**
- 3 機械浴 **ゼロ**
- 4 誤嚥性肺炎 **ゼロ**
- 5 脱水 **ゼロ**
- 6 拘束 **ゼロ**
- 7 下剤 **ゼロ**

駒場苑の人員配置

現行の配置基準（3:1）の場合、定員55名に対して介護職16.4名＋看護師3名である

定員 55名

介護職
22.4名



看護師
3.6名



2.1

2022年11月1日時点



現在2.1 : 1 の配置が4 : 1になったら
介護職が約1/2の数に

半分の人数になるとどういうケアになるのか



1フロア入居者
18~19名に対して

日中 3~4名 ▶ 日中 1~2名

夜間 1名 ▶ 夜間 3フロアで2名



早番
8 : 00 ~ 16 : 00

遅番 (午後入浴)
11 : 00 ~ 19 : 00

夜勤
17 : 00 ~ 9 : 00

介護ロボットは監視は出来ても 食事介助はできない

4 : 1の場合の食事のケア

- 18～19名の方を職員1～2人で食事介助
- 全員一気に食事介助しなくては間に合わないため朝食のための起床は5時
- 1人の日は全員を食堂にお連れするのも難しくなりベッド上の食事が増える。
- 食事介助はさらにスピードを求められるようになり誤嚥や窒息が増える。1日2食にする所も増える。
- 好きな食べ物、飲み物を楽しめる時間もなくなってしまう。



介護ロボットは監視は出来ても 排泄介助はできない

4 : 1の場合の排泄のケア

- 日中、夜間19名のご利用者を1名の職員で排泄介助
- 個別のトイレ誘導等は難しくなり、早い段階でおむつでの排泄になる方が増え、重度化が進む
- 排泄センサーで尿が溜まった事を検知出来ても、センサーは介助してくれないので、職員がいなければ対応できない。いろんなセンサーが鳴っているのを、1人の職員がかけまわるという状況に



介護ロボットは監視は出来ても 入浴介助はできない

4 : 1の場合の入浴のケア



- 入浴は14～16時の間のみで1人介助
- 週2回→週1回の入浴
- ボタン1つで洗浄まで機械が行うような機械浴を使うようになる事で、重度化が進む
- そのような入浴では写真のような表情は引き出せない



介護ロボットは監視は出来ても 個別の対応や趣味活動や外出支援はできない

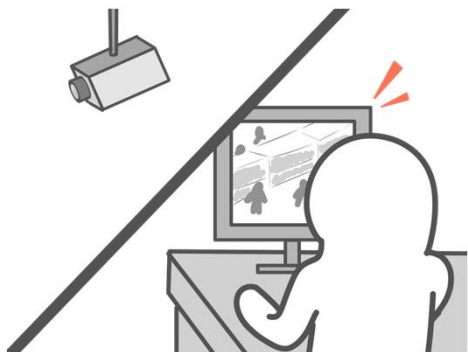
4 : 1の場合の生活のケア

- 個別ケアや趣味活動、外出等に付き添う職員がいないため
個別のケアや関わりは出来なくなる
- 終日ベッドで横になっている方達を、1人の職員がカメラ
で監視し、センサーやコールが鳴れば、対応するのは
介護ロボットではなく、1人の職員
- 介護を通してチームで人に関わる→介護ロボットを通して
人を1人の職員が管理、監視する→虐待が増える



4 : 1 では介護は出来ない

こんな仕事を
誰がしたくなるだろうか？



24時間監視録画中
24-hour monitoring recording